



第6号

発行 平成17年4月1日

茨城県立図書館

ボランティア協議会広報委員会

文責 黒沢 英宣

かがやき

目次

新しい図書館をたずねて
～ 2月3日・ボランティア見学会 ～
研修は必修に
～ ボランティア研修で意欲向上 ～
つくば市立図書館ボランティアとの交流会
～ 図書修理ボランティアの立場から ～
アンケートから見えてくるもの
～ ボランティアの声 ～
～ まとめ ～
編集後記



新しい図書館をたずねて



・ 2月3日・ボランティア見学会 ・

笠間市立図書館

人口3万人に満たない現在のミニ市にこれほどの図書館とはと、入館するなり、その素晴らしさに驚きました。まず、閲覧室中央と奥の片隅にしゃれた木造のボックスがあったのです。何だろうと覗いてみたら、携帯電話通話ボックスでした。図書館入館時には携帯電話の電源をきっておくのが常



識の時代が、ここでは過去のものとなっていました。この一例からも現在の初代館長の、都内図書館で22年間の在職経験から生み出された新しい考えの設備がいろいろな処にほどこされており、ただただ感心の連続でした。私は笠間市に転居したくなった程でした。

この国家、地方財政の厳しいさなか、どうしてこのような立派な図書館が昨年開館となったか不思議で、館長に先ず質問してみました。答えは、ほとんどの建設設備資金は特別起債であって、今後の国からの交付金による返済手段にたよる算段である、とのことでした。さもあらん、これといっ

ゆうき図書館

結城駅前の立派なビル、昨年5月新規開館の図書館、2Fの研修室で副館長から説明を受けて、館内見学。全国の公立、市立図書館を通じて先例のほとんど無い図書管理システム、貸し出しのコンピューター管理システムには全く感服しました。誰がここまで考えて実際に設備開発に至ったかと、あらためて感心させられました。電気代が気になるような、明るすぎる照明設備に、



て見るべき産業、企業も見当たらないこの自治体には立派過ぎるといっては失礼ですが、まったく「超先進的図書館の出現」と言えます。

ボランティア活動については、館長がかなり消極的見解を示しておられたので、当分実現の見込みはなさそうでした。

IT設備、照明の適切さなど、全くうらやましい限りの図書館を得た笠間市民、近隣居住者が、大いにここを利用すれば、より一層知的生活の向上に役立つであろうと感じました。ボランティアの皆さんも笠間を通りがかったときには、ぜひとも立ち寄りをお勧めしたいスポットです。

電気代が大変でしょうと質問すると、夜間電力を利用して暖冷房まで効率良く、経済的に運用しているとの答えでした。副館長も話されていましたが、図書館の不存在にながらく恥辱感を味わってきたといわれる結城市としては、遅まきながら、地方都市としてはかなり思い切った設備をしたものだと感じました。さすが民族的文化財的織物の結城紬の産地の自負があったからではないかとも思われました。

ボランティア活動については、現在考慮中とのことで、近い将来の実現とその運営を考えていて、県立図書館にボランティア制度や運営の勉強に出掛けたいとの意向でした。先輩ボランティアとして胸を張って説明指導できるようにわれわれ一同、精進精励して、その時に備えたいものだと思います。

〔上条 哲〕



研修は、必修に



ボランティア研修で意欲向上

3月12日(土) 年度末ながら、私たちの研修会が開催され、参加予定者37名中28名が参加しました。講師の常磐大学池田幸也教授の巧みなリードで、大半の時間、参加者が1対1や小グループになり、楽しいコミュニケーションの場が創られました。

自己紹介カード(氏名・自分の活動内容・研修会参加の動機・活動の成果・ボランティアの今後の課題を四つ折のカードに端的に明記)を作成した。全員輪になって、講師から「この中で何人知っている人がいますか?」と質問され、それぞれ答えた。

そのあと、自己紹介カードを持ち、自由に初対面の相手を1人探して、立ったまま短時間内に自己紹介した。

と同じことをさらに2回繰り返し、結局3人の初対面の人と知り合いになった。



次に、任意に4人~5人の小グループに分かれ、自らの活動から見たボランティア活動の課題をオープンに話し合い、いくつかにまとめた。

各グループ毎にまとめたものを代表者が発表した。

発表後、講師がまとめの講評をした。

会場内は、参加者同志が輪になったり対面したりグループになったりしたため、自分の考えや思いを伝えることができ、事前には予測もしていませんでしたが、その場がにぎやかで明るいボランティア同志の交流と相互啓発の場となったのは、従来では体験できなかった貴重な研修の成果でした。

にぎやかで楽しい雰囲気、参加者が本音を出すことができた今回の研修は、ボランティアの「元気」、「やる気」、「本気」を引き出す良い実践例になったと思います。

このような研修会を、年度末ではなく、5月、10月の年2回開催し、文字通り登録ボランティアの必修とすれば良いと思います。

研修会終了時の盛大な拍手の嵐と、会場のあちらこちらで参加者同志が名残りおしそうにお別れの挨拶を交わす光景が印象的でした。

〔黒澤 英宣〕

つくば市立中央図書館ボランティアとの交流会

*** 図書修理ボランティアの立場から ***

2月21日(火) つくば市立中央図書館ボランティアの皆様が県立図書館を訪問されました。全体説明と館内見学のあと、各分野に分かれて話し合いが行われました。

対応は、つくば市のボランティア分野に合わせ、県立図書館ボランティアの正副委員長と職員が当たりました。

私は10年前まではつくば市に住んでいて、その図書館で本の修理を教えていただきました。ですから、つくばは私のボランティアの原点です。とても楽しみにお待ちしました。知った方は山川先生お1人でしたが、修理だけで9人も見えられてビックリしました。

そして一番の悩みは私たちと同じように「無線綴じ」のバラバラになった本の修理とのことでした。特に、つくば市立中央図書館は、私が居た時もそうだったのですが修理する場所が狭く、2～3人でしか仕事できません。皆で集まってよいアイデアを出し合うことが難しいとのことでした。場所が狭いと道具も置けません。私たちの

恵まれた環境と固定式の電気ドリル等々沢山刺激になったのではないのでしょうか。



「私たちも最初は、はさみとカッター程度で場所もカビ臭い地下室でした。つくばの皆様もどうぞ頑張ってください。」と申し上げてお別れしました。そして、改めて私たちの仕事に多大なご理解とご協力をくださっている県立図書館の皆様には感謝する次第です。

〔図書修理 川上 八重〕

アンケートから見えてくるもの

前回の会報「輝 - かがやき - 」(第5号・12月1日発行)でご協力いただきましたアンケートを集計しましたので、ご報告します。

33名の方々が回答を寄せられました。

〔金澤 鈴枝〕

		はい	いいえ	無回答
A. 自分が期待した通りの活動ができた		18人 (55%)	15人 (45%)	0人
上記で い え に 再 質 問	全体の動向がつかめない	11人 (74%)	2人 (13%)	2人 (13%)
	同じ活動をする人達との交流がない	14人 (93%)	0人	1人 (7%)
	別のボランティア活動に移りたい	3人 (20%)	10人 (67%)	2人 (13%)
B. 図書館職員との接触がない		18人 (55%)	14人 (42%)	1人 (3%)

ボランティア活動についての意見、希望（ボランティアの声）

【活動状況】

- 時間のある時に参加しています。
- 先輩方が親切に教えて下さいますので、楽しく活動しております。
- いつも楽しく活動させていただいております。
- “自分のできる範囲で何かしら人の役に立つことをする”こんなあたりまえのことがやっと3年目にしてわかってきたような気がします。
- 気負わず自分ペースでほそくながくでしょうか。
- もう少し時間を作って中身の濃い活動をしていきたいなあと思います。

【部門共通】

- 登録していても参加しないボランティアについて追跡調査をして、進退をはっきりして欲しい。はっきり言って迷惑です。
- 最初は大勢のボランティアの方が来ていたのに、月日が経つにつれて、人数がへってきているのが残念です。
- 交通費、いただけませんか。年間2～3,000円位。
- 駐車場の印を貰う時にも感ずるのですが、職員の方はボランティアの顔も覚えてもらいたい。
- ボランティアは自分から進んで行うのが基本だと思うので、現行の方法でもよいのですが、職員の方がどのようにボランティア活動をとらえているのか、なにか不満はないのか、という思いはあります。
- また“横”のつながりをどうとったらよいのかという思いはあります。
- 研修があると助かる。
- 今のままで良い。

【資料配架ボランティア部門】

- 返却される本が多いのは、利用者の多い土・日だと思います。ボランティアの方も、平日は参加者が多いようですが、土・日となると極端に少ないように思います。土・日に活動できる方を増やせば、職員さんも助かるのではないのでしょうか。

広報紙“輝”で配架サービスのボランティアのみなさんによびかけてみてはいかがでしょうか。

- 活動自体というよりは、館内の改善についてなのですが、利用者に対して、読んだ本はきちんと元の場所に返す、わからなければ、一時置き場として茶色の棚に置くというふうに、積極的に掲示をした方が良いと思いました。
- 私は本がとりやすくみやすいように配架を心がけています。利用者とボランティアが互いに配架に注意を払えば、より使いやすい本棚になると思います。
- 資料配架自体はすきなので楽しく活動させてもらっています。



【児童サービスボランティア部門】

- 名簿にのっていても、全然出てこない人は除いてほしい。実質的に2人になっている。
- 他の曜日の方との交流会も、もう少し頻度をあげてほしい。(というか1回しか行ってない気がします)
- 他の曜日の人の情報を知りたいな、意見を交換してみたいな・・・とはおもいますが、じゃ 月 日集まりましょう・・・と言われると、なかなかむづかしい・・・。

せめて同じ曜日の人達で、合わせ技(チームプレー)によるお話ができればいいな・・・いや、そうできるよう、自分がやらなきゃね・・・それがボランティア。

- 時間も1時間は長すぎる。30分が限界です。分けてやるとか、方法に考える余地有。
- 図書館のイベントの際に、児童ボランティアで工夫したイベントを行えたら良いと思います。
- おはなしをする部屋があけばなしなので、出入り自由でなく、カーテンをするなどしてほしい。
- 生涯学習の場としてのボランティア。毎回、自身の研修のつもりで、お人形とおはなししています。
- 子どもの反応を見て自分なりに本選び、読み方など考えながら、継続して来ましたので、とても良い学習の場であり、やりがいを感じています。
- 毎回違った親子が来て熱心に見てくれます。
- これからも子どもたちの心に響く読み聞かせをしたいと思います。



ご意見、ご希望のうち、図書館側から回答があったものは、3階ボランティア室に掲示いたします。

まとめ

今回のアンケートにご協力くださった皆様にお礼申し上げます。

248名の登録ボランティアのうち、33名の方々が、県立図書館3階にある私たちのボランティア室に置いたボックスに回答用紙を入れてくださいました。

アンケート回収率は、13%でした。

登録ボランティア全体の意識は、回収率が低すぎて把握するには無理がありますが、しかし、実際に図書館へ来て活動しているボランティアは、この回答数のおよそ2倍または2.5倍ぐらいの数ではないかと思われます。

このような観点から、図書館で活動を実践しているボランティアの方々の意識の一端は、少なくともつかめたと思います。

集計の結果は、参加者が少ない現在のボランティア活動の状況を改善し、今後ボランティア活動を盛り上げるため、どのような対策が必要かを検討する際に、対策に反映させるため、図書館及び私たちの県立図書館ボランティア協議会（正副委員長で構成）に提示したいと思います。

また、お寄せくださった貴重なご意見・ご希望についても、活動の活性化対策の参考とすべく、提示したいと思います。

〔黒澤 英宣〕

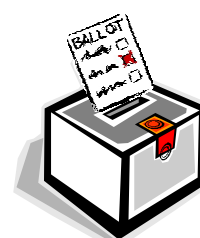
「ボランティアの声」の箱をボランティア室に設置しました。
おなたの声をお聞かせください！！

皆様のご意見・ご希望を広報紙「輝 - かがやき - 」に掲載し、
回答が必要な場合は、回答も掲載し皆様に広報いたします。

匿名・記名はご自由です。

用紙も自由ですが便宜的に一応おいておきます。

皆様からの「アクセス(!?) 投稿 」待ってます。



編集後記

3月12日(土)に開催されたボランティア研修会は、参加者一人一人が自分の考えや思いをお互いに自由に発言でき、意見交換の場としても有意義でした。

ボランティア活動は、生涯学習の一環であるとも言え、その意味で、適時適切な相互啓発と情報交換の場づくりは、ボランティア活動の盛衰を決すると言ってもよいと思います。

折りしも「出発(たびだち)」の季節、桜花爛漫の候となり、多くの人々が新たな人生の舞台へと歩を進め始めました。ともかくも、「元気に生きること」と「楽しく学ぶこと」が本当に大事であることを実感する季節の到来です。

皆様のご健勝をお祈りします。



〔黒澤 英宣〕



県立図書館南側



県立図書館正面入り口